

氏名	青山 薫
職位	COE 特定助教
<p><b>研究概要</b></p> <p>2007 年度以来継続して国立女性教育会館の客員研究員。文科省科研費プロジェクト「人身取引の防止のための教育・啓発と連携方策に関する調査研究」（研究代表者：神田道子）に携わる。2009 年 4 月からは、「グローバル性取引：『人種差別』の影響と当事者の視座をもつ対策」プロジェクト研究代表者として文科省科研費（2 年間）を受理。これを進める傍ら、厚労省エイズ対策研究事業プロジェクト「個別施策層（とくに性風俗に係る人々・移住労働者）の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」（研究代表者：東優子）も分担。東北大学 GCOE の「人間の安全保障と人身取引問題プロジェクト」（代表者：大沢真理）メンバーにもなっている。2009 年 11 月からは、京都大学 GCEO メンバーとともにトヨタ財団研究助成を受けた「東アジアにおける結婚移民とコミュニティの再生産に関する研究」（2 年間）の共同研究者でもある。</p> <p>これら課題を総合して、ジェンダーとセクシュアリティ・経済格差・「人種」概念・国家間関係といった構造的要因と個々のアクターの行為がどう相互作用し、社会を変化させているかを考察。グローバルな性取引という比較的新しい領域において、社会的排除や人権蹂躪に対抗する政策的見通しを立てるため、実証・理論双方から貢献することをめざす。</p>	
<p><b>教育概要</b></p> <p>GCOE プログラムの中では、おもに次世代ワークショップの準備・運営・事後報告の取りまとめおよびワーキングペーパーの査読を担当。文学研究科の教務内では、全学共通ポケットゼミの教務補佐として「セックスワークの社会学」と「社会学英語講読」を半期ずつ担当。また、正規の授業外で、関心分野を近しくする学部生・大学院生の折々の相談に乗る。</p> <p>京都大学以外では非常勤講師として、立命館大学政策科学部で「政策科学英語講読」を、関西学院大学社会学部で「グローバル社会特講」を、東京外国語大学外国語学部で「英語で学ぶフェミニズムの最前線」を、富山大学経済学部で「ジェンダー論」を担当してきている。</p> <p>ジェンダーとセクシュアリティ・グローバル化・社会学・社会的排除に関する知見を、社会学理論・方法論（道具としての英語を含む）とともに役立てるべく努力している。</p>	
<p><b>業績リスト</b></p> <p><u>著書</u>（単著）：(1) <i>Thai Migrant Sex Workers from Modernisation to Globalisation</i>, Palgrave/Macmillan (2009 年 2 月)</p> <p><u>論文</u>（単著）：(1) 『『バイ・セクシュアルである』と、いうこと』金井淑子編『身体とアイデンティティ・トラブル』（明石書店）(2008 年 5 月)；(2) 'Migrant Sexworkers in Japan: Moving from Modernisation to Globalisation', the Proceedings of <i>International Symposium on Asian Gender Under Construction</i>, International Research Center for Japanese Studies (2010/ 3)；(3) 「社会規範に呼応するセクシュアリティとジェンダー—タイ女性性労働者の場合」法政大学国際文化研究科・京都大学東南アジア研究所「リージョナリズムとアイデンティティ」研究会論集（2010 年 3 月）</p>	

